

論理的思考力を鍛える授業の活動報告

都築 五明*

(受領日：2019年5月28日)

高知工科大学 経済・マネジメント学群
〒780-8515 高知県高知市永国寺町2番22号

* E-mail: tsuzuki.itsuaki@kochi-tech.ac.jp

要約：高知工科大学では、初年次教育としてスタディスキルズという授業を行っている。この中で論理的思考力を育成するための方法の一つとして、事実と筆者の意見を切り分け、事実を元に自分で考察し、評価する授業回がある。この回の講義は「騙されないぞ。論理的に考えて事実をつかむ。」とタイトルを付け、出前授業で行うこともある。今回はこの内容を報告する。

1. はじめに

スタディスキルズは、1年生のほぼ全員が受講している授業で、主体的に学ぶための基礎的な能力と社会人基礎力として必要なスキルを身につけることを目的としている。講師は、民間企業等で長年働いてきた経験を活かして当該スキルを教える教育講師である。その目的に沿っている限り、手法は本授業の担当者に委ねられており、それぞれの講師が自分のキャリアを活かし、得意な分野や教育方法で授業が行われている。筆者は学生には特に論理的思考力を鍛えてもらいたいと考えているため、授業内では、因果の構造化、演繹法と帰納法、ピラミッドストラクチャーといった思考ツールや思考方法を取り入れている。

2. 授業内容

2.1 授業の構成

本授業では、1999年5月12日に発行された『日経ビジネス』の記事を使用している。内容は、「改正男女雇用機会均等法が施行された4月1日を期して女性社員の制服を廃止する企業が相次いだ」ことに関するものである。学生に読ませる記事は2種類あり、最初はこの記事の中で、事実が書かれた部分についてはそのまま掲載し、作者のメッセージや解釈の部分については「女性社員の制服廃止、好調な出だし」という見出しに沿って文章を一部変更を加えた資料1aを配布し読ませる。次に4人程度のチームを組み、グループディスカッション（以下

GD）により進める。①まず事実と事実以外に文章を分ける。②そして「好評と言える理由」を回答させる。③続けてその評価として「成功と言えるか」と質問をして、「成功か否か」とその理由について回答させる。④最後に「そもそもどのような結果が出た場合に成功と言えたのか」をあらためて答えさせるという構成としている。

2.2 学生の一般的な回答

2.2.1 文章の把握

①の事実とそれ以外に文章を分ける作業では、「内勤部門では少しずつカジュアル化が進んでいる」や「1カ月経った今は、すでに女性社員の半数が私服派だ。」といった、事実と筆者の基準でみた見解が入った部分を、事実について述べた部分として取り上げる学生は多い。

2.2.2 好評の理由

②好評と言える理由には、「1カ月経った今は、すでに女性社員の半数が私服派だ。」という箇所を取り上げる学生が多く、次いで「決算への好影響」という言葉に引っ張られて「2年間で約2億円削減できると試算」が取り上げられることが多い。

2.2.3 「成功」の判定

記事では、好調との評価があるが、それぞれの学生においても「成功か「否」かを結論づけてもらう。この場合、1、2名程度は、成功とも失敗とも言えないという評価をしていくことが多い。その理由の一つはそもそも1ヶ月の期間では短すぎて評価で

きないというものである。その際には、「もしあなたが社員で、1ヶ月経った現在、社長から成功か否かと問われて、まだ評価できないと回答できるのか？」と問うことで再考させる。

ただ、中には「失敗である」と回答する学生がいる。「1ヶ月で半分しか私服になっていないから」という理由付けをしてくる学生の他、「男性営業マンのカジュアル化が進んでいないから」といった回答もほぼ毎回見受けられる。

2.2.4 達成すべき目標

最後に、「そもそもどのような結果が出た場合に成功と言えたのか」と学生に問う。ここで8割方の学生が戸惑っている。通常であれば達成すべき目標があり、それが実現したのか否か、完全ではなくても一定の割合で実現したと言えるのかを問うのであるが、その際に、学生は「そもそも達成しようとした真の目標」を完全に失念している。残り2割の学生は「女性社員の制服を廃止することが達成したい目標である」と考えることが多い。

2.3 自分の意見の確認

真の目標について学生から一応の解答が出た後に、資料1bの記事を配布し、この資料がオリジナルであることと、文章中の下線部が修正を加えた箇所であることを伝える。多くの学生が、この記事を読み、事実と考えていた文章が、筆者の意見や見解であったことに気がつくことになる。特に、1ヶ月経った時点で女性社員の半数が私服派と書けば好評のように見え、制服派と書けば不評と見える点を比較して、学生は事実と意見を分解する必要性を理解する。

3. おわりに

本授業の開始時には、学生は新聞等にかかれた文章は、ほとんどが事実を記述した文章で構成されているものと解釈している。しかし筆者の意見や評価の部分と切り分けることで、自分の意見だと思い込んでいたことが、意外に他人の評価をそのまま受け入れていることに気がつく。授業の最後に学生に書かせている「本日の学び」にも、①今後は誰の意見かという目を持って確認するとか、②別の視点をもって考えることが必要だと感じたという意見が書かれている。

授業の中では、思考ツールが使えるようになるよう教えるが、思考ツールが使えるようになることは、単なる勉強ではなく、思考ツールは現実社会において自ら課題を発見し、問いを立て解決するため

の術であることを忘れず、日々の生活の中で使うように指導をしている。学生が、生活や研究を行う上で基本となる思考する力を身に着けるための授業の一つの形を今回紹介した。

資料1a 「女性社員の制服廃止、好調な出だし」

改正男女雇用機会均等法が施行された4月1日を期して女性社員の制服を廃止する企業が相次いだ。主な企業だけでも、オリックス、三井海上火災保険、日石三菱、武田薬品工業……「女性にだけ制服を義務づけるのは好ましくない」（労働省）という均等法の趣旨や、個性尊重の時代の流れに沿った英断である。当の女性社員からの評判も上々。

例えば三井海上。4月1日に制服貸与をやめ、6カ月の移行期間をもって廃止予定だが、1ヶ月経った今は、すでに女性社員の半数が私服派だ。当初は「服選びに時間がかかる」「事務作業で私服が汚れる」と、廃止に否定的な声が多く上がると思われていた。会社にとっては制服貸与にかかっていた経費を「2年間で約2億円削減できる」と試算があり、決算にも好影響となる。ある女性社員は「オフィスで派手な服を着ている人もいるものの、おとなしめの私服を2、3着ロッカーに置いて制服代わりにしている人もいる」と対応はそれぞれだ。制服廃止に伴う“自由化”は、ひとそれぞれのライフスタイルを謳歌させる。

制服廃止の影響は女性ばかりではない。日立製作所は4月21日、旧来の社風を変えようと、服装の原則自由化に踏み切った長年親しんだスーツにネクタイ姿からなかなか脱皮できない社員がいる一方で、「営業マンはすぐには難しそうだが、内勤部門では少しずつカジュアル化が進んでいる」（日立製作所）という。

「個の時代」を迎え、オフィスでの服装の自由化は着実な広がりを見せている。少し時間はかかりそうではあるが、女性、男性社員ともこれを機に、意識も少しずつ変わってきているようだ。

出典：日経ビジネス1999年5月10日を元に一部改変

資料1b 「女性社員の制服廃止、意外な不評」

改正男女雇用機会均等法が施行された4月1日を期して女性社員の制服を廃止する企業が相次いだ。主な企業だけでも、オリックス、三井海上火災保険、日石三菱、武田薬品工業……「女性にだけ制服を

義務づけるのは好ましくない」(労働省)という均等法の趣旨や、個性尊重の時代の流れに沿った英断のはずだった。ところが、当の女性社員の評判が芳しくないのだ。

例えば三井海上。4月1日に制服貸与をやめ、6カ月の移行期間をもって廃止予定だが、1カ月経った今も、女性社員の半数は制服派だ。「服選びに時間がかかる」「事務作業で私服が汚れる」と、廃止に否定的な声が意外に多い。会社側は制服貸与にかかっていた経費を「2年間で約2億円削減できる」と試算するが、ある女性社員は「オフィスで派手な服を着るわけにもいかないから、私服を2,3着ロッカーに置いて制服代わりにしている」とこぼす。制服廃止に伴う“自由化のコスト”は、ばかにならないようだ。

制服廃止に戸惑いを見せるのは女性ばかりではない。日立製作所は4月21日、旧来の社風を変えようと、服装の原則自由化に踏み切った。だが、長年親しんだスーツにネクタイ姿から脱皮できない社員は多いようで、「営業マンは仕方ないとしても、内勤部門でもカジュアルな格好をしているのはごくわずか」(日立製作所)という。

「個の時代」を迎え、オフィスでの服装の自由化は着実な広がりを見せている。しかしどうやら、女性、男性社員とも会社からの“お仕着せ”では動かないようだ。

出典：日経ビジネス 1999年5月10日号

文献

- 1) “改正均等法～女性社員の制服廃止, 意外な不評「私服汚れるのはイヤ」企業の“お仕着せ”ままならず”, 日経ビジネス, 第990号, 5月10日, 1999.

Course Activity Report to Train Logical Thinking Power

Itsuaki Tsuzuki*

(Received: May 28th, 2019)

School of Economics & Management, Kochi University of Technology
2-22 Eikokuji, Kochi City, Kochi 780-8515, JAPAN

* E-mail: tsuzuki.itsuaki@kochi-tech.ac.jp

Abstract: At Kochi University of Technology, a course called Study Skills is given in the first-year education curriculum. In this paper, I will recount a lecture titled “I will not be deceived. I think logically and get the facts”. In our curriculum, this is one of the methods used for fostering logical thinking that separates the facts from the author’s opinion and has the students examine and evaluate the facts based on their own thinking.